

(様式第1号)

研究No. (記載不要)	17-学長-8
-----------------	---------

平成 17 年度配分 研究成果の概要

研究名	日中学術概念の形成に関する比較研究				
配分を受けた特別研究費	学長 特別研究費 900				千円
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏名	共同研究の場合の分担
	文化政策	国際文化	助教 授	孫江	
共同研究者					
発表の方法 (予定で可)	1 紀要		号数	第 号 (年 月発行)	
	2 学会等での発表 学会等名:		発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日	
	3 その他 発表の方法:別紙参照		発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日	

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

二十世紀末以来、グローバル化と反グローバル化が交錯するなかで、「知の革命」が静かに展開されている。近代性がジレンマに陥ったことによって、従来の学術概念、言説、理論は様々な思想的、現実的問題に対応できなくなった。ポストモダニズムの擁護者たちは「知の考古学」の名の下で「近代知」を根底から覆そうとしている。一方、モダニズムの擁護者たちは近代性という基本理念を前提としながらも、「近代知」を再構築することの必要性を認めざるをえなくなった。こうしたことを背景に、ヨーロッパ、日本、中国の異なる学術的空間において、学術概念についての比較研究が盛んになっている。

本研究の目的は、いままでの研究成果を踏まえたうえで、近代東アジアにおける「知の空間」の同一性と非同一性、具体的には、日中両国における学術概念の形成過程について考察することである。近代東アジアにおける知の空間の同一性と非同一性の考察は、日中両国において「近代性」がどのように形成され、知の空間が両国における歴史意識の形成や近代的世界観の形成にどのような影響を与えたかなどの問題の解明に寄与することが期待され、また、二十一世紀東アジアにおける開放的かつ包容力のある知の空間の形成に歴史的・学術的背景を提供することも期待される

(研究の実施方法等)

- 1、資料調査を行った。
- 2、国際シンポや学会を通じて、各国の学者と交流し、発表した。
- 3、論文を公表した。

(得られた成果等)

- 1、「連続と断絶——清末民国初期における黄帝の叙述」(中国語)、『時間・空間・書写』(新社会史3)、浙江人民出版社、2006年8月。日本語、並木頼寿編『戦前期における中国の教科書研究』(研文出版、2007年)に収録。
- 2、「テキストの終わり」と近代知の誕生」、国際日本文化研究センター、2006年5月27日。
- 3、*Yangjiao* or “the other”:Christianity and Chinese Society in the Second Half of the Nineteenth Century, Harvard University, 2006, 6, 2—4.
- 4、「文本的終結と近代知識的発生」、韓国成鈞大学東亞学術院、2006年7月5日—9日。